

平成 29 年度 市民後見人養成講座 シラバス

1. 座学 (45 時間)

1. オリエンテーション		
講座全体ならびに実習を円滑かつ適切に進めていくためのオリエンテーションを、講座の中で適宜、実施する。		
科目名および講師 (所属)	時間 (分)	科目の内容
講座のオリエンテーション(開講の辞) 牧野篤 (東大教育学研究科教授) 北野俊光 (地域後見推進センター 理事長、弁護士) 飯間敏弘 (東大教育学研究科 特任助教)	90	講座の開講のご挨拶、ならびに講座を円滑に進めていくためのオリエンテーション (講座の内容や留意事項、講座の進め方等に関する具体的な説明や事務連絡など) を行う。
実習のオリエンテーション 飯間敏弘 (東大教育学研究科 特任助教)	20	実習の円滑な進捗と適切な取り組みを進めていくためのオリエンテーション (実習の課題の内容や留意事項、実習の取り組み方等に関する説明や事務連絡など) を行う。

2. 日本の高齢社会		
少子高齢社会が進む日本の人口、財政などの現状と、高齢化の時代における地域社会のあり方について学ぶ。		
科目名および講師 (所属)	時間 (分)	科目の内容
日本の高齢社会 I (高齢社会の現状) 森田朗 (津田塾大 教授、東大名誉教授)	90	日本の高齢社会の現状 (高齢化率や認知症高齢者の人数の推移、人口動態、社会保障財政の現状、およびそれらの将来の見通しなど) について理解する。
日本の高齢社会 II (高齢社会の理念・あり方) 牧野篤 (東大教育学研究科 教授)	90	超高齢化の時代における地域社会のあり方 (地域に暮らす人々の自己決定の尊重と支援、地域的な助け合いに基づくコミュニティの構築など) について学ぶ。

3. 成年後見の制度・法律

法定後見と任意後見に関する制度や法律について基本的な事柄を一通り理解するとともに、市民後見の役割や理念などについて学ぶ。

科目名および講師（所属）	時間（分）	科目の内容
市民後見概論 小池信行（山田二郎法律事務所、弁護士）	90	市民後見の役割・理念、社会規範や倫理、期待される市民後見人像（市民後見の特徴や強み等）について理解する。
法定後見制度Ⅰ・Ⅱ 高村浩（高村浩法律事務所、弁護士）	180	法定後見制度について、各類型の特徴や違い、後見人が有する権限の内容、財産管理や身上監護に関する事務、後見報酬、後見登記などについて学ぶ。
任意後見制度 遠藤英嗣（地域後見推進センター執行理事、弁護士）	90	任意後見制度について、制度が利用される状況やその手続きの流れ、任意後見契約の内容、法定後見との相違点、任意後見に付随して結ばれることが多い諸契約の内容などについて学ぶ。

4. 疾病や心身の状況の理解

高齢者の老化や疾患などといった心身の状況、ならびに認知症、精神・知的障がいなどに関する医学的な基礎知識について学ぶ。

科目名および講師（所属）	時間（分）	科目の内容
高齢者および認知症の理解 小川純人（東大医学系研究科 准教授）	90	高齢者の老化や疾患、生活機能などについて理解するとともに、認知症に関して、その種類や症状、特徴、治療や接し方などについて学習する。
知的・精神障がいの理解 佐多範洋（海上寮療養所、医師）	90	知的障がいおよび精神障がいについて、障がいの種類やその症状、特徴などを医学的観点から学び、知的障がい等に関する理解を深め、対象者との接し方を学ぶ。

5. 対象者の理解と接し方

対人援助に関する理論や基礎的な技術についての理解を養うとともに、障がい者等への支援のあり方や施策の展開などについて学ぶ。

科目名および講師（所属）	時間（分）	科目の内容
対人援助の基礎 高橋美保（東大教育学研究科 教授）	90	自己洞察や自己覚知、傾聴や共感などといった、対人援助に係るコミュニケーション技術、カウンセリングや面接手法などに関する理論や実践について学ぶ。
障がい者等の支援と施策Ⅰ（障がい者の支援、虐待防止等） 曾根直樹（日本社会事業大学准教授）	90	障がい者等に対する支援のあり方および虐待の防止について、「障害者総合支援法」や「障害者虐待防止法」をはじめとする各種制度の概要や施策の展開などについて学ぶ。
障がい者等の支援と施策Ⅱ（障がい者の権利、差別解消等） 崔榮繁（DPI 日本会議議長補佐）	90	障がい者の権利および差別の解消に関して、「障害者権利条約」および「障害者差別解消法」を中心に、制度の内容や理念、障がい者への支援のあり方などについて学習する。
後見における意思決定支援 水島俊彦（法テラス八戸法律事務所、弁護士）	90	後見における本人の意思決定支援について、イギリスの意思決定能力法などを参考に、その理念や内容、実践のあり方などを学ぶ。

6. 後見関連制度・法律

年金、医療・介護保険、生活保護制度など、成年後見に関連する制度について、その内容や施策の展開のあり様などを学ぶ。

科目名および講師（所属）	時間（分）	科目の内容
後見関連制度・法律Ⅰ（社会保障制度全般・年金） 樽見英樹（厚生労働省 大臣官房長）	90	日本の社会保障制度全般（社会保障財政の現状、社会保障政策の歴史・変遷、現在の社会保障政策の概要と展開のあり方など）、および年金制度（各年金の仕組みや特徴、制度の現状や課題など）について理解する。
後見関連制度・法律Ⅱ（医療・介護保険、生活保護） 津曲共和（兵庫県健康福祉部障害福祉課長、前厚労省）	90	日本の公的医療制度、介護保険制度についての概要（保険の仕組みや保険財政の現状、利用可能なサービス等）、ならびに生活保護制度の概要（申請に係る要件や手続、保護の内容等）について学ぶ。

7. 後見の実務と事例

各地域において後見活動を行っている後見人などから、実際の後見実務のあり方や具体的な事例について学ぶ。

科目名および講師（所属）	時間（分）	科目の内容
後見人の実務Ⅰ・Ⅱ 中道基樹（ナカミチ行政書士事務所、行政書士）	180	後見人が実際に行う業務の具体的内容（後見等開始申立、本人の財産管理や身上監護に係る事務、後見事務報告書等の作成や死後事務の実施方法など）について理解する。
後見活動の事例 木原道雄（木原道雄司法書士事務所、司法書士）	90	現在、実際に活動している後見人から、日頃行っている後見業務や実務のあり様や、本人の生活等への支援の態様、直面している課題などについて学ぶ。
未成年後見 木原道雄（木原道雄司法書士事務所、司法書士）	90	後見制度の一種である未成年後見について、その法律や制度の内容、具体的な事例、実際の未成年後見人の活動のあり様などについて学習する。
財産管理の実務（不動産の管理） 松崎隆司、西澤希和子（全国住宅産業協会）	90	本人の不動産の管理のあり方について、不動産取引および契約の方法、不動産に係る制度、不動産の相続、不動産管理の実務、事例の検討などについて学ぶ。

8. 民法の基礎

民法について、後見人として活動していく上で必要となる基本的な分野（財産法と家族法の基礎）を一通り学習する。

科目名および講師（所属）	時間（分）	科目の内容
財産法・家族法の基礎Ⅰ（契約・代理、相続・遺言） 大久保博史（司法書士法人つばさ総合事務所、司法書士）	90	後見と関連が深く、後見業務を行う上で必要となる財産法および家族法の基本的な事柄（特に契約や代理、相続・遺言に関する法律の概要など）について理解する。
家族法の基礎Ⅱ（遺産分割） 片岡武（東京家庭裁判所、裁判官）	90	後見人として業務を行っていく上で必要となる家族法の基本的な事柄（特に遺産分割に関する法律の概要や留意点など）について学ぶ。

9. 後見関連機関の役割と実務

後見と関係が深い各種機関（市町村、社会福祉協議会、家庭裁判所）の役割と実務について学習する。

科目名および講師（所属）	時間（分）	科目の内容
後見関連機関の役割と実務Ⅰ（家庭裁判所） 北野俊光（地域後見推進センター 理事長、弁護士）	90	家庭裁判所における後見担当部（裁判官、調査官、書記官等）の役割や後見の審判や審理等に係る手続や運用などのあり様について具体的に学ぶ。
後見関連機関の役割と実務Ⅱ（社協の取り組み） 佐々木佐織（東大教育学研究科 特任専門職員）	90	地域の認知症高齢者等を始めとする人々の生活を支援し、その権利を擁護するための事業（日常生活自立支援事業など）に関する社会福祉協議会の取り組みの状況について学ぶ。
後見関連機関の役割と実務Ⅲ（市町村の取り組み） 東啓二（東大教育学研究科 特任専門職員）	90	後見人の活動のサポートや成年後見制度利用の支援などの事業（成年後見制度利用支援事業など）に関する市町村の体制や施策の実施状況などについて学習する。

10. 後見実務の演習と討論

後見活動（後見事務や支援計画等）のあり方について、受講生同士がグループワークを通じて議論し、さらにそれを踏まえて、後見実務に関する演習を実施する。

科目名および講師（所属）	時間（分）	科目の内容
グループワークⅠ 飯間敏弘（東大教育学研究科 特任助教）	70	グループワークを通じて、各々が異なる意見を交換する中で、自己の価値観を相対化し、後見人として適切に対処できるような考え方を身につける。
後見実務の演習Ⅰ・Ⅱ（グループワークⅡ） 飯間敏弘（東大教育学研究科 特任助教）	180	後見実務（後見等開始申立の書類作成等）に関する演習の実施に際し、後見に係る申立の書類作成に関する解説や説明を行う。その上で、後見実務の具体的な事例について、グループワークによる討論を行う。

11. 総括的講義

講座における総括的な講義として、理解度確認テスト、ならびに後見の展望と課題に関する検討を行う。

科目名および講師（所属）	時間（分）	科目の内容
理解度確認テスト 飯間敏弘（東大教育学研究科 特任助教）	90	各講義についての理解度を確認し、受講生が自身の到達度を自覚し、学習の動機付けを一層高めるために、講座の後半に理解度確認テストを実施する。
成年後見の課題と展望	90	後見の今後の課題と展望に関して、後見制度や運用の問題点およびその解決策、後見の将来の方向性や今後のあり方などについて学ぶ。

2. 実習（15 時間）

1. 体験実習

体験実習として、施設体験実習や後見実務演習といった実践的な課題に取り組み、後見人として活動するための経験を身につける。

科目名および講師（所属）	時間（分）	科目の内容
施設体験実習 東啓二（東大教育学研究科 特任専門職員） 佐々木佐織（東大教育学研究科 特任専門職員）	300	実際に施設介護等の現場を体験することによって、対象者への接し方や支援のあり方などを具体的・実践的に身につける。
後見実務演習(後見開始申立書等の作成) 飯間敏弘（東大教育学研究科 特任助教）	600	後見等開始申立書、申立事情説明書、支援計画書など、後見等開始申立等に係る書類を実際に一通り作成することを通じて、後見業務に関する実践的な知識や技術を身につける。